

ロボットで防ごう、野生動物被害

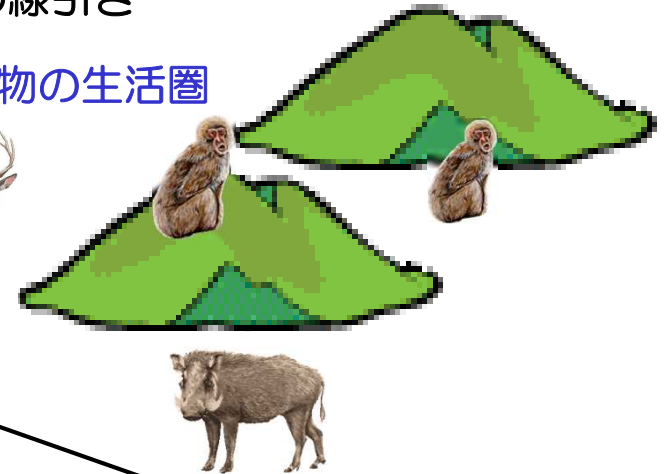
野生動物が近づかない地域作り＝互いの生活圏の線引き



人の生活圏



野生動物の生活圏



装置は、自己完結型で、電源は必要ですが、インフラは無くてもOK

現在、ニホンジカとイノシシについては、個体数を半減させる目標で国が交付金で捕獲事業の支援をしています
当然、成果が上がると思います

が、100%の捕獲はまず無理ですから、必ず次世代に野生動物がやってきます

この時期をチャンスと捉え、その昔は出来ていた野生と人との生活圏の線引きを、改めてきちんと行うことで、野生動物が人の生活圏に入ること、結果個体数を増やすようなことにならないようにすれば、その後の捕獲にかかる手間と費用を削減することが出来ると考えられます

捕獲という対策の繰り返しを無くす方向に進めると考えられますし、その一方では野生の保護にも繋がります

ここでの最大の問題は、中山間地域の抱える人口減問題、その地域で日中活動する人が居なくなった実態です

この人手不足の問題を、ロボットに置き換えられないか、そんな思いから開発をスタートしました

24時間365日、そこに猟師の方が立っているシーンを作り出そうとするものです

Mail通知

件名：[害獣検出]

インフラがあれば、識別・検知した時点で、そのショットを添付したメール通知もできます

忌避手段が実行されたログとしても、活用できます ↓添付されたショットの例



岡山県岡山市中区祇園433-6 ☎703-8207

有限会社青電舎

Tel:086-275-5000 Fax:086-275-8898

seiden@po.harenet.ne.jp

http://www.seidensha-ltd.co.jp/~seiden/jugai_robot.html

青電舎 獣害対策ロボット



SEIDENSHA

2024.02.15